

農林水産研究の推進（現場ニーズ対応型研究） 園芸作物における有機栽培に対応した病虫害対策技術の構築 【研究概要】

1. 研究目的

土壌診断と有機質資材を活用した土壌病害対策のマニュアル化、在来種を用いた安価な国産天敵や新たな植物ワクチンの開発等により、有機栽培に対応した病虫害対策技術を開発し、安定した有機農業経営の実現に貢献する。

2. 研究背景

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立の実現に向けて、有機農業への転換を進める上で、園芸作物における病虫害対策技術が不足している。

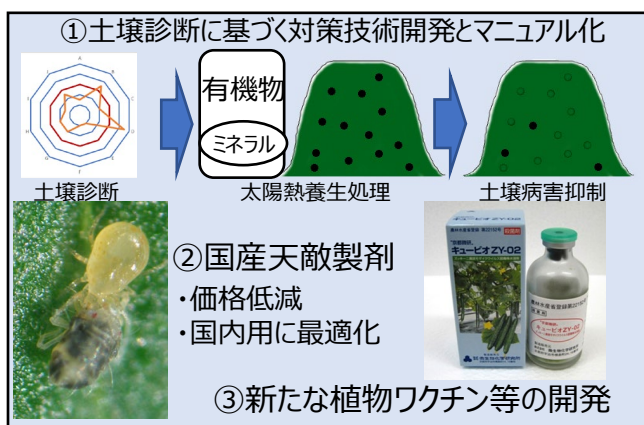
このため、土壌太陽熱養生処理や国産天敵製剤等、土壌病害や害虫に対して多様な作目で活用でき、かつ、低コストな防除技術を開発する。



有機栽培での病虫害対策の問題点

3. 研究内容

- ①土壌診断に基づく土壌太陽熱養生処理や腐植酸処理によるかんしょ等の土壌病害に対する抑制効果を検証し、処理方法を最適化する。
- ②果樹のハダニ等に対する使い勝手の良い国産天敵製剤の開発を行う。
- ③植物の保護機能を高めるバイオスティミュラント資材（BS）や、ウリ科野菜に対する植物ワクチンの開発を行う。



有機栽培に対応した病虫害対策技術の概要

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・土壌太陽熱養生処理、腐植酸処理のマニュアルを作成
- ・生産者が使用しやすいハダニ用国産天敵製剤、BS、植物ワクチンの開発



期待される効果

開発された技術を組み合わせて病虫害を総合的に防除し、みどりの食料システム戦略において掲げる「2050年までに有機農業の取組面積を25%（100万ha）に拡大」の目標達成に貢献。

研究代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

共同研究機関：公設試、石原産業(株)、日本曹達(株)、(株)微生物化学研究所、(株)ジャパンバイオフィーム